

ムカシの競馬を読む

平成19年・東京競馬場
安田記念
優勝馬:ダイワメジャー

© JRA



第141回 10年・20年・30年前の6月



ムカシの競馬を読む



須田鷹雄 すだかお

いまから10年前、平成19年の6月というと、ダイワメジヤーが安田記念を制した月である。逃げたゴウリキシオーを交わしての勝利で、グッドババなど香港勢3頭を下してのものでもあった。表彰式プレ

抜け出すると、2着イーグルマウンテンに5馬身差をつける圧勝を演じた。15度目の挑戦ついに大魚を釣り上げた天才は『夢がかなつた。素晴らしい馬だ』と喜びを爆発させた

「日本ダービーのウォッカ、米ペルモントとのラグズトウリツチーズと
モントンの時代」などとも言われたの
だが、カナダでも女性の偉業があつた。27日付のサンスポから引用しよ
う。

さて、話はいきなり日本、それも地方競馬に飛ぶ。平成19年6月にはこんなニュースも報じられていた。
17日付の日高報知より。

ゼンターは当時大関だった千代大海。実は筆者はこのときイベントで一緒にさせていただいていて、舞台裏では軽く四つに組んでもらうたりもしたのだが、110キロ超の筆者がから見ても岩のようというか、さすがの重みと体格であったのを覚えている。

同じ週に念願のレースを勝った人がこちら。平成19年6月4日付の日刊スポーツから。

「フランキーがやった！」ランクランコ・デットーリ騎手が悲願のダービー制覇を果たした。2日にエプソム競馬場でおこなわれた英ダービーで、断然1番人気のオーソライズドに騎乗。縦長になった馬群の中団を追走して抜群の手ごたえで

大レースをたくさん勝つていても特定のレースが勝てない、といふのはよくある話。そして、一度勝てるとなぜかまた勝てたりするのもよくある話で、デットーリ騎手はご存知のとおり、一昨年にもゴールデンホーンで英ダービーを制している。

しかもこのときデットーリ騎手は翌3日にシャンティイで行われたフランスダービーもローマンで制しており、2日連続でのダービー制覇となつた。ちなみにフランスダービーのほうは3回目の優勝だつた。

この年はウォツカの日本ダービー制覇、ラグズトゥリッヂーズのベルモント制覇（1902年ぶり）があつ

牝馬の活躍が目立つ今年、今度は女性騎手が史上はじめてカナダのダービーを制した

制度を利用し、町議と町長らでつくった「日高町議連ホツカイドウ競馬応援会」の設立総会が15日、定例町議会閉会後に役場大会議室で開かれた（中略）25日に札幌競馬場で開かれるトレーニングセールで軽種馬1頭の購入を目指している。

付けられ、堂山厩舎からデビュー。大活躍とはいかなつたが、門別で1勝をあげている。

もともとの趣旨がホッカイドウ競馬を応援しようということだし、当の競馬はこの10年でだいぶ回復基調なので、町議たちの目的は果たされたと言えるのではないだろうか。

続いていまから20年前、平成9年の6月。翌月に一大イベントを控えていた香港の競馬が、一般紙でも取り上げられていた。16日付の東京新聞から。

「中国への主権返還を2週間後に控えた香港で15日、夏のシーズン最後の競馬が九龍半島・新界の沙田競馬場で行われ、馬券の売り上げ総額は25億4260万香港ドル(約406億8160万円)と香港競馬史上の最高額を記録した」

このとき馬券が売れたのは返還前最後の競馬＝競馬の先行きが不透明だったことに加え、トリプルトリフォ(3連複を3レース連続で当てる)のキャリーオーバーが溜まっていたことにもよる。ただ残念ながらこのとき的中者は出ず、2レース的中者へのコンソレーションが払われ、残りは新体制競馬にキャリーオーバーされた。

中国に返還されたあとはどうなるものかと思われた香港競馬だ。

が、ジョッキークラブの名前から「ロイヤル」が取れた以外は大きな変化もなく、順調に継続していくなどである。

そばに、大井競馬の場外発売所が設置される。3日、特別区競馬組合が明らかにしたもので、開設はナイター競馬のはじまる14日。愛称はオフトラックの略で、オフトライム（余暇）、オフ（休暇）の意味をもたせるために「off後楽園」となる。

いまのオフト後楽園は黄色いビルの1階にあるが、このときは後楽園球場（東京ドームはまだ建設中の手前にあつた空き地に鉄筋2階建て、1800平米という小規模なものを作ったのだった。しかも、将来23区内に展開する小規模場外（これは実現しなかつた）に向けたデータ収集を目的としていたため、翌年3月までの期間限定で、期間満了後は建物を撤去するという、いまでは考えられない「臨時場外」だつた。